

## ブラジル

景気  
(実質)  
GDP



### [25年ぶりの大幅景気後退]

15年の経済成長率は-3.8%と25年ぶりの大幅マイナス。政情不安から財政健全化や構造改革が難航。主要格付け機関すべてが「投資不適格」と格下げ。

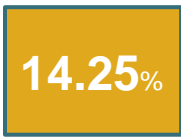
物価  
(CPI)



### [金利高と物価高の二重苦]

2月CPIは前年比+10.84%。中銀サーベイにおける16年末見通しも7.59%と高止まり。金利・物価高が家計圧迫、内需の重しに。

金融  
政策



### [5会合連続据え置き]

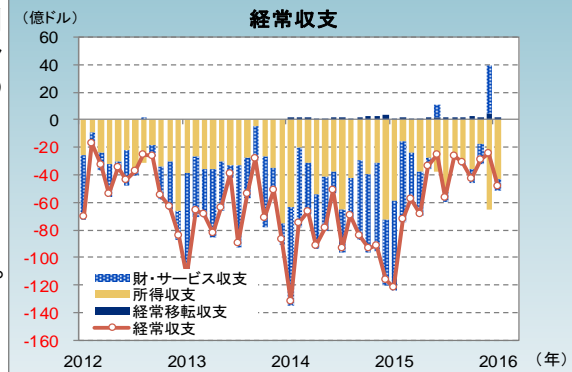
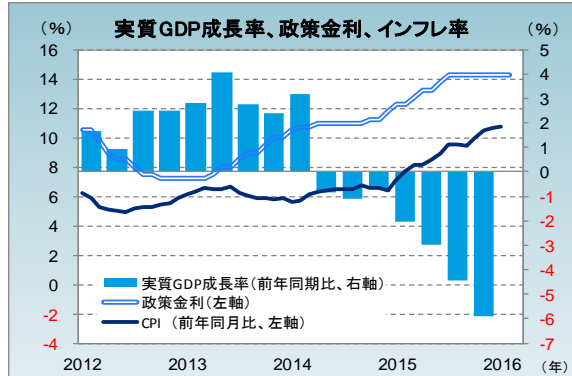
ルセフ大統領の政治汚職により歳出削減等を打ち出しにくい環境。当面はインフレ抑制より景気を重視するも、中銀の信任が低下するリスクも。

国際  
収支



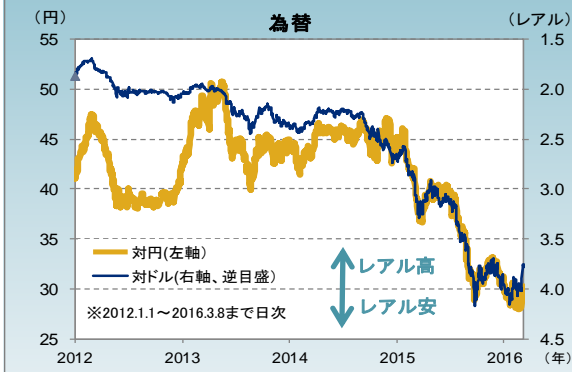
### [赤字幅拡大]

単月では赤字拡大も、GDP比(12カ月合計)は2.9%と約3年ぶりの水準に改善。対内直接投資も下げ止まりの兆候。



為替

	〈騰落率〉			
	(2月末)	1か月間 (1月末)	3か月間 (11月末)	前年初来 (14年12月末)
対円 (1レアル=28.05円)		(30.28円) <b>7.36%</b>	(31.82円) <b>11.85%</b>	(45.05円) <b>37.73%</b>
対ドル (1ドル=4.02レアル)		(4.00レアル) <b>0.42%</b>	(3.87レアル) <b>3.83%</b>	(2.65レアル) <b>51.77%</b>



### [底打ち感]

米国利上げ見通し後退によりリアル売り圧力弱まる。リアル安を背景に直接投資に底堅い動きもあり、底打ち感出始める

株式

	〈騰落率〉			
	(2月末)	1か月間 (1月末)	3か月間 (11月末)	前年初来 (14年12月末)
ボベスパ指数 (42,793.86)		(40,405.99) <b>5.91%</b>	(45,120.36) <b>5.16%</b>	(50,007.41) <b>14.42%</b>



### [汚職捜査進展で反発]

ルセフ大統領の弾劾手続き進行、ルラ前大統領拘束など国営石油会社ペトロブラスの汚職事件進展から政変期待、株価反発。

## オーストラリア

景気  
(実質)  
GDP

Q4GDP成長率  
**+0.6%**  
前期比



### [相対的に好調]

15年成長率+2.5%。移民増加でサービス業や住宅投資が好調、鉱業部門の低迷を補完。新車販売台数も過去最高と内需が経済回復をけん引。

物価  
(CPI)

Q4インフレ率  
**+1.7%**  
前年同月比



### [低インフレ]

緩やかな賃金の伸びや原油安がインフレ低位推移に寄与。低インフレが一段の金融緩和余地につながるとの中銀の見解。

金融  
政策

**2.0%**



### [9か月連続据え置き]

過去最低水準の金利で貸出増加。一方、都市部の住宅価格は伸び鈍化と、現在の緩和的なスタンスが適切との中銀の認識。

国際  
収支

12月経常収支  
**-211**  
億豪ドル



### [赤字幅拡大]

中国経済減速による需要低迷と商品価格の下落が経済を直撃しているものの、豪ドル安が景気の追い風に。

為替

〈騰落率〉

	(2月末)	1か月間 (1月末)	3か月間 (11月末)	前年初来 (14年12月末)
対円 (1豪ドル=80.48円)		(85.82円) <b>6.22%</b>	(88.97円) <b>9.54%</b>	(97.86円) <b>17.76%</b>
対ドル (1豪ドル=0.71ドル)		(0.71ドル) <b>0.80%</b>	(0.72ドル) <b>1.19%</b>	(0.82ドル) <b>12.62%</b>

### [反発の兆し]

堅調な経済指標と商品市況の上昇により豪ドル反発。中銀は最近の豪ドル高を比較的穏やかとしながらも、小幅下落を歓迎。現在の相場を過度には懸念していないことを示唆。

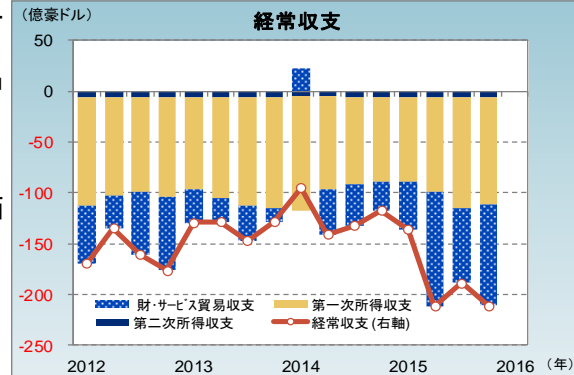
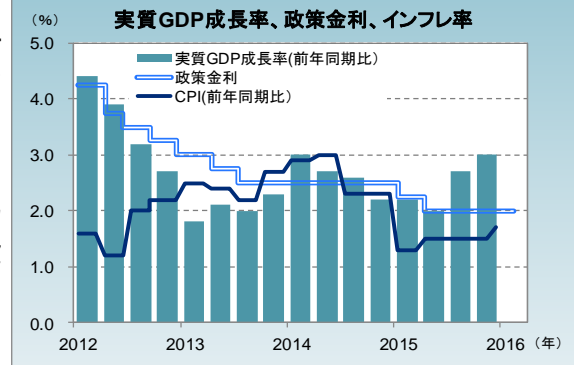
株式

〈騰落率〉

	(2月末)	1か月間 (1月末)	3か月間 (11月末)	前年初来 (14年12月末)
S&P/ASX指数 (4,880.93)		(5,005.52) <b>2.49%</b>	(5,166.52) <b>5.53%</b>	(5,411.02) <b>9.80%</b>

### [下値限定的]

原油価格回復や予想上回る経済指標が好感される。最近の株安から値ごろ感もあり、下値は限定的か。



## トルコ

景気  
(実質)  
GDP



**[やや改善]**

シリアで停戦発効するも相次ぐテロで観光客減少、景気下押し。シリア難民受け入れ合意でEUとの関係強化。ビザ免除措置など、EU加盟交渉に向け加速。

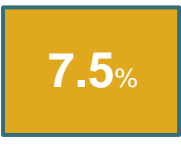
物価  
(CPI)



**[小幅減速]**

食料品下落が寄与。政府の肉価格上限設定が背景。16年政府見通しは+7%、その後3年は+5%と変更なし。リラ下落が上方、政局安定は下方に寄与。

金融  
政策



**[当面は様子見]**

高止まりするインフレと減速する景気の両にらみで当面金利据え置き。金融政策の簡素化も当面は棚上げか。

国際  
収支



**[経常赤字改善]**

原油安を背景に輸入が減少し貿易収支改善。一方、旅行客減少でサービス収支の黒字額は減少傾向に。

為替

〈騰落率〉

	(2月末)	1か月間 (1月末)	3か月間 (11月末)	前年初来 (14年12月末)
対円 (1リラ=38.00円)		(41.00円) <b>7.31%</b>	(42.25円) <b>10.06%</b>	(51.20円) <b>25.78%</b>
対ドル (1ドル=2.97リラ)		(2.95リラ) <b>0.36%</b>	(2.91リラ) <b>1.79%</b>	(2.33リラ) <b>27.01%</b>

**[反発の兆し]**

原油相場反発、中国の預金準備率引き下げなど投資環境改善で、リラ反発の兆し。

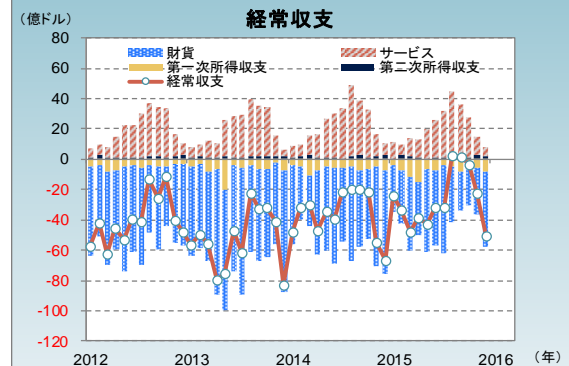
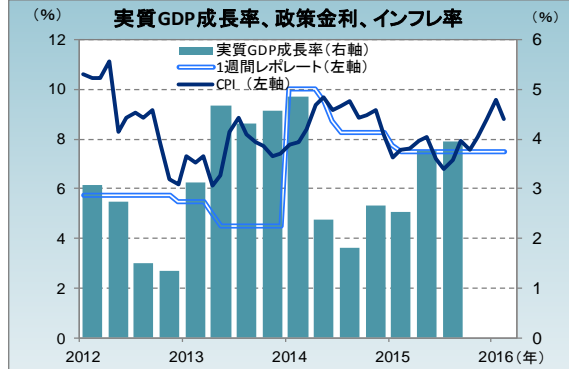
株式

〈騰落率〉

	(2月末)	1か月間 (1月末)	3か月間 (11月末)	前年初来 (14年12月末)
イスタンブール 100種指数 (75,814.41)		(73,481.09) <b>3.18%</b>	(75,232.79) <b>0.77%</b>	(85,721.13) <b>11.56%</b>

**[底打ち感]**

テロなどの地政学的リスクはくすぶるものの、政局安定で底打ち感出始める。



## メキシコ

景気  
(実質)  
GDP

Q4GDP成長率  
**+2.5%**  
前年同期比

**[見通し引き下げ]**

中銀は16年成長率見通しを2.5-3.5→2-3%と下方修正。原油安と世界の需要低迷に加え、輸出の8割占める米国経済に減速感が出始めたため。

物価

1月インフレ率  
**+2.61%**  
前年同期比

**[やや加速]**

最近のペソ安で今後数カ月はインフレが加速し、年末には目標の中心の3%付近で推移するとの中銀見通し。

金融  
政策

**3.75%**

**[突如の利上げ]**

変動相場制導入以来のペソ安支えるため、0.5%緊急利上げ。同時に中銀のドル売り直接介入と歳出削減策実施を発表。通貨安定に向け、強い意思表示。

国際  
収支

Q4経常収支  
**-77**  
億ドル

**[貿易赤字拡大]**

最大の貿易相手国、米国製造業の鈍化に加え、ペソ安に起因する輸入コスト上昇を背景に消費財輸入が低迷。

為替

〈騰落率〉

	(2月末)	1か月 (1月末)	3か月 (11月末)	前年初来 (14年12月末)
対円 (1ペソ=6.21円)		(6.69円) <b>7.10%</b>	(7.43円) <b>16.33%</b>	(8.12円) <b>23.48%</b>
対ドル (1ドル=18.14ペソ)		(18.11ペソ) <b>0.14%</b>	(16.57ペソ) <b>9.42%</b>	(14.76ペソ) <b>22.86%</b>

**[直接介入で通貨安定]**

突如の利上げ、米ドル売りの市場直接介入へと変更し臨機応変にペソを下支えする意向を示す。ペソは反発。

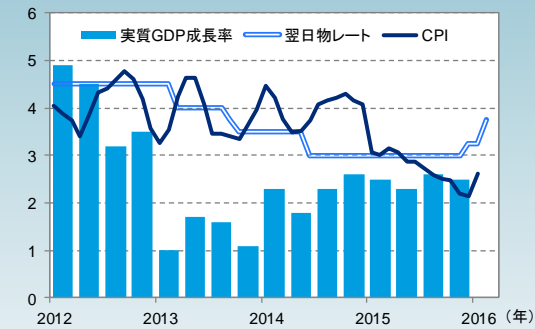
〈騰落率〉

	(2月末)	1か月 (1月末)	3か月 (11月末)	前年初来 (14年12月末)
ボルサ指数 (43,714.93)		(43,630.77) <b>0.19%</b>	(43,418.55) <b>0.68%</b>	(43,145.66) <b>1.32%</b>

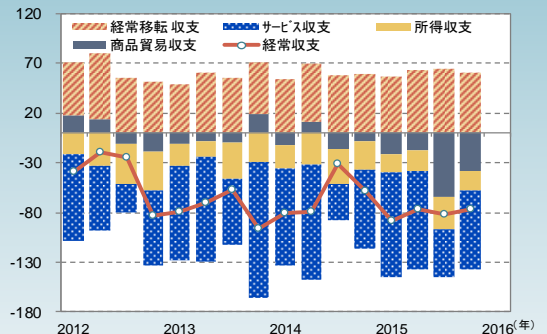
**[利上げ好感]**

原油相場の持ち直しで株式も買われる、ペソ下支えの意向示した中銀の対応も好感される。

実質GDP成長率、政策金利、インフレ率



経常収支



為替



株価指数



## 南アフリカ

景気  
(実質)  
GDP

Q4GDP成長率  
**+0.6%**  
前年同期比

### 【格下げ懸念】

15年通年も前年同期比+1.3%と減速。深刻な干ばつによる農業の低迷とインフラ不備が足かせ。長引く景気減速に加え、財政赤字拡大が一段の格下げ要因に。

物価

1月インフレ率  
**+6.2%**  
前年同月比

### 【17ヵ月ぶり高水準】

干ばつによる食品高、電気・燃料費(前月比+11%)高騰でインフレ止まらず。政府の16年見通しは前年比+6.8%と、目標上限6%を超える懸念。

金融  
政策

**6.75%**

### 【収まらぬインフレ】

ランド安による高インフレ抑制のため、引き締め方向。景気減速の中での相次ぐ増税が家計を圧迫、景況感はさらに悪化。

国際  
収支

1月貿易収支  
**-179**  
億ランド

### 【赤字縮小傾向続く】

輸出が前年同月比+6.6%、輸入が同一-2.1%と、ランド安による輸出押し上げ傾向続く。3ヵ月ぶりの赤字だが、ならしてみた赤字縮小傾向が続く。

為替

〈騰落率〉

	(2月末)	1ヵ月 (1月末)	3ヵ月 (11月末)	前年初来 (14年12月末)
対円 (1ランド=7.10円)		(7.62円) <b>6.87%</b>	(8.52円) <b>16.69%</b>	(10.36円) <b>31.47%</b>
対ドル (1ドル=15.87ランド)		(15.88ランド) <b>0.07%</b>	(14.45ランド) <b>9.85%</b>	(11.57ランド) <b>37.23%</b>

### 【一時対ドルで最安値】

資源国通貨としての売り圧力に加え、ズマ大統領と財務相との確執という政治不信から一時対ドルで17ランド台後半の史上最安。その後大統領が不仲説否定すると反発するものの、当面は不安定な展開か。

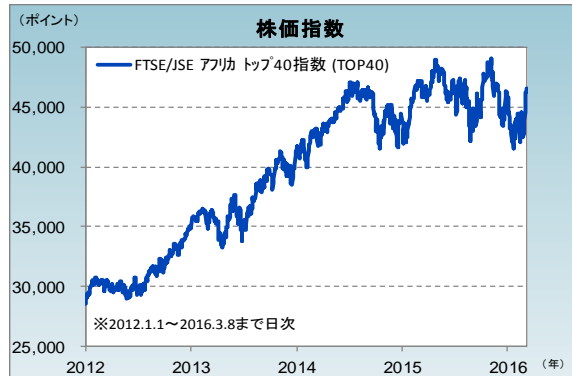
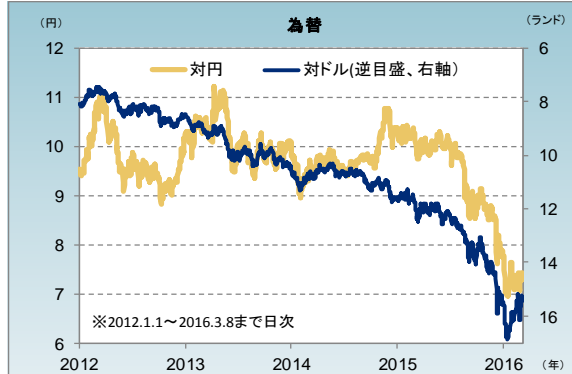
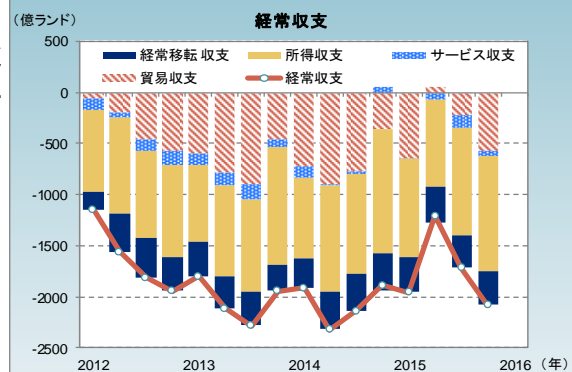
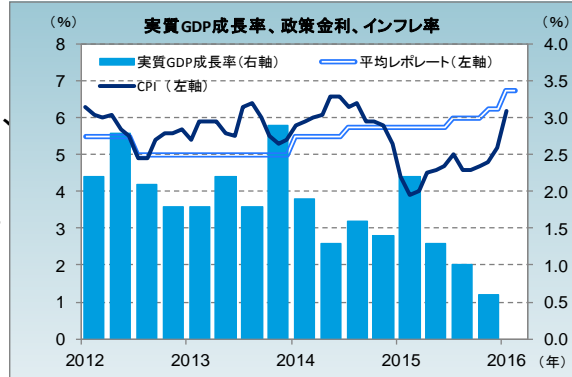
〈騰落率〉

株式

	(2月末)	1ヵ月 (1月末)	3ヵ月 (11月末)	前年初来 (14年12月末)
TOP40株価指数 (43,802.56)		(44,065.55) <b>0.60%</b>	(46,329.56) <b>5.45%</b>	(43,969.96) <b>0.38%</b>

### 【週間で09年来の上げ】

中国全人代で景気刺激策が打ち出されるとの期待感から、プラチナ関連株中心に上昇、09年5月来の週間の上げとなった。



## 中国

景気  
(実質)  
GDP

15年実質GDP成長率  
**+6.9%**  
前年同期比

### 【全人代開幕】

16年目標は+6.5-7.0%、今後5年も年平均6.5%以上の安定成長目指す。積極的な財政出動と柔軟な金融政策で雇用創出し、構造改革で生産性高める意向。

物価

1月インフレ率  
**+1.8%**  
前年同月比

### 【デスインフレ】

15年名目GDP成長率+6.4%へ低下。実質GDP成長率を下回り、デフレ傾向強まる。企業債務負担も増大。

金融  
政策

**4.35%**

### 【預金準備率引き下げ】

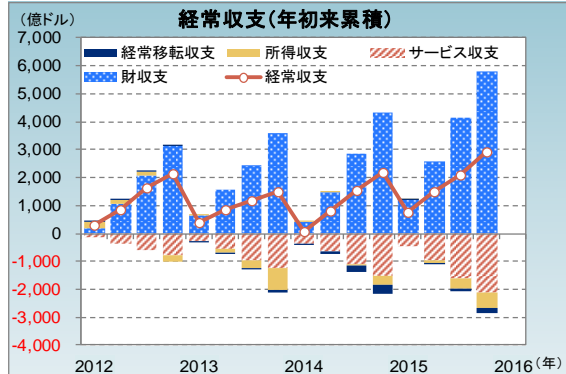
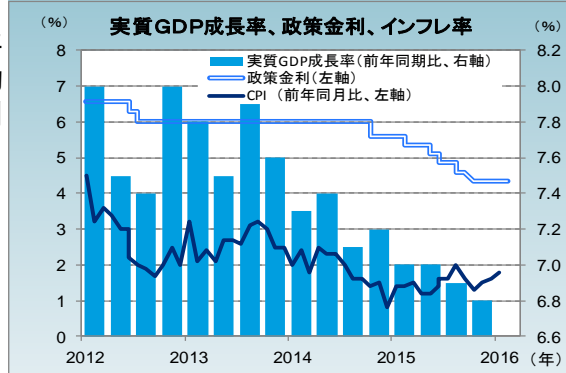
全銀行対象に0.5%預金準備率を引き下げ17%へ。流動性供給で債務負担に苦しむ企業を支援し、景気を下支え。

国際  
収支

2月貿易収支  
**+326**  
億ドル

### 【貿易落ち込み】

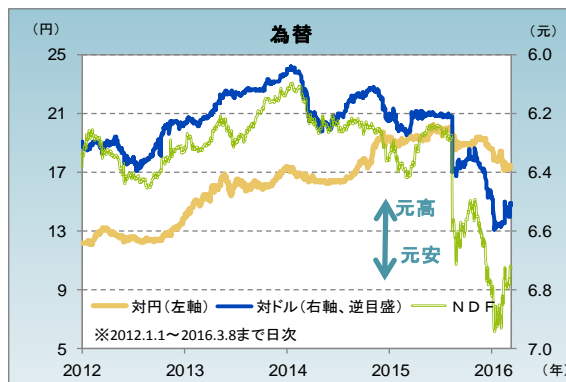
ドル建ての輸出が前年同月比-25.4%と、09年5月以降で最大の落ち込み。輸入も減少し、内外需での減速が鮮明に。



為替

### 〈騰落率〉

	(2月末)	1カ月 (1月末)	3カ月 (11月末)	前年初来 (14年12月末)
対円 (1元=17.20円)		(18.42円) <b>6.66%</b>	(19.24円) <b>10.65%</b>	(19.29円) <b>10.88%</b>
対ドル (1ドル=6.55元)		(6.58元) <b>0.33%</b>	(6.40元) <b>2.45%</b>	(6.21元) <b>5.62%</b>



### 【下落圧力和らぐ】

米国の追加利上げ観測後退し、元の下落圧力和らぐ。先月に比べ為替介入減ったが、外貨準備高が3兆ドル割れる懸念も。

### 〈騰落率〉

	(2月末)	1カ月 (1月末)	3カ月 (11月末)	前年初来 (14年12月末)
上海総合指数 (2,687.98)		(2,737.60) <b>1.81%</b>	(3,445.41) <b>21.98%</b>	(3,234.68) <b>16.90%</b>
香港ハンセン指数 (19,111.93)		(19,683.11) <b>2.90%</b>	(21,996.42) <b>13.11%</b>	(23,605.04) <b>19.03%</b>



株式

### 【一進一退】

商品市況の回復、政府の景気刺激策期待で上昇するも、中国のさえない経済統計で下落。当面は値動き激しい展開か。

## 当資料に関してご留意いただきたい事項

### 投資信託に係るリスクについて

投資信託は、値動きのある有価証券に投資しますので、基準価額は変動します。当該資産の市場における取引価格の変動や為替の変動等を要因として、基準価額の下落により損失が生じ、投資元金を割り込むことがあります。したがって、元金が保証されているものではありません。信託財産に生じた利益および損失は、全て受益者に帰属します。

また、投資信託は、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、お申込みの際は投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

### 投資信託に係る費用について

投資信託では、一般的に以下のような手数料がかかります。手数料率はファンドによって異なり、下記以外の手数料がかかること、または、一部の手数料がかからない場合もあるため、詳細は各ファンドの販売会社へお問い合わせいただくか、各ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

投資信託の購入時: 申込手数料

投資信託の換金時: 換金(解約)手数料、信託財産留保額

投資信託の保有時: 運用管理費用(信託報酬)、監査費用

運用管理費用(信託報酬)、監査費用は、信託財産の中から日々控除され、間接的に投資者の負担となります。間接的負担には、その他に有価証券売買時の売買委託手数料、外貨建資産の保管費用、信託財産における租税費用等が含まれます。また、他の投資信託へ投資する投資信託の場合には、当該投資信託において上記の費用がかかることがあります。

### <ご注意>

上記に記載しているリスクや費用につきましては、一般的な投資信託を想定しております。投資信託に係るリスクや費用は、それぞれの投資信託により異なりますので、お申込みの際には、事前に投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

アムンディ・ジャパン株式会社

金融商品取引業者: 関東財務局長(金商)第350号

加入協会: 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会

### 【当資料のご利用にあたっての注意事項等】

当資料は、アムンディ・ジャパン株式会社(以下、弊社)が投資家の皆さまに情報提供を行う目的で作成したものであり、投資勧誘を目的に作成されたものではありません。当資料は法令に基づく開示資料ではありません。当資料の作成にあたり、弊社は情報の正確性等について細心の注意を払っておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に記載した弊社の見通し、予測、予想意見等(以下、見通し等)は、当資料作成日現在のものであり、今後予告なしに変更されることがあります。また当資料に記載した弊社の見通し等は将来の景気や株価等の動きを保証するものではありません。